

# 重賞5勝を上げた超良血サイアー トゥザグローリー *To the Glory*



距離適性 短 → ● ↓ ● ← 長  
重馬場 巧 → ● ↓ ● ← 拙  
ダート 巧 → ● ↓ ● ← 拙

キングカメハメハ King Kamehameha 鹿 2001	Kingmambo	Mr. Prospector Miesque
	マンファス(IRE)	Last Tycoon Pilot Bird
トゥザヴィクトリー To the Victory 鹿 1996	サンデーサイレンス (USA)	Halo Wishing Well
	フェアリードール (USA)	Nureyev Dream Deal

## ●現役時代

3～7歳時に中央で33戦8勝2着2回3着2回。日経新春杯GⅡ、日経賞GⅡ、京都記念GⅡ、鳴尾記念GⅢ、中日新聞杯GⅢ。デビューは3歳3月とやや遅めではあったが、新馬、500万と連勝すると、青葉賞2着、ダービー7着とキャリア4戦で同世代と互角の力を示した。秋冬はマイル路線からクラシックディスタンスに目標を定めると、デムーロ騎手を背に中日新聞杯で重賞初制覇。続く有馬記念ではウィリアムズ騎手を背に好位3番手から勝ち馬ヴィクトワールピサと同タイム3着と好走。明け4歳になっても続戦し、京都記念、日経賞を連破。天皇賞春は1番人気に推されたが、出来が良すぎたか、掛かり気味になってしまい、スタミナが持たずに大敗。秋冬は天皇賞秋から有馬記念の王道路線。有馬記念では勝ち馬オルフェーヴルとコマ1秒差3着と2年連続して好走した。その後も日経新春杯、鳴尾記念を制し、トータルで重賞5勝。GIタイトルこそ手が届かなかったが、競走馬としてのポテンシャルはGIクラスであった。

## ●血統背景

父キングカメハメハは中央で8戦7勝、日本ダービー、NHKマイルC。産駒にドゥラメンテ(日本ダービーGI)ローズキングダム(ジャパンCGI)ロードカナロア(年度代表馬)ラブリーデイ(天皇賞秋GI)。母トゥザヴィクトリーは最優秀古牝馬。エリザベス女王杯GI勝ちのほか、ドバイワールドカップGI2着。全弟にトゥザワールド(弥生賞GⅡ)、全妹にトーセンビクトリー。

## ●産駒の特徴

500キロを超える雄大な馬格から繰り出すパワーを武器に、好調時には歴史的な名馬とGIで微差の勝負を繰り返した良血馬。初年度から多くの配合牝馬に恵まれ、上々のスタートを切っている。産駒は、極端なスプリンターこそ想像しづらいが、中、長距離で芝、ダート問わず、オールマイティなカテゴリでの活躍が期待される。父は名種牡馬。母は名牝。恵まれた馬格同様、期待は大きい。(2015年種付頭数96頭)